

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

生き抜くんだ！
その想像力が、未来を拓く。

TOSHIYUKI KAMIOKA

Conductor

ドイツを拠点に欧州で活躍し、音楽へ愛を注ぐ孤高の芸術家

上岡 敏之 指揮



©Nikolai Puschilin

ELISSO VIRSALADZE

Piano

80歳の今も充実した活動を展開し、
聴衆を魅了する世界的巨匠

エリソ・ヴィルサラゼ ピアノ

ニールセンの戦争交響曲に、
鬼才・上岡が熱い思いを込める！

シベリウス：交響詩「エン・サガ」 作品9 SIBELIUS: En saga op. 9

シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 SCHUMANN: Piano Concerto in A minor, op.54

ニールセン：交響曲第5番 作品50 NIELSEN: Symphony No. 5, op. 50

読売日本交響楽団 第628回 定期演奏会 YNSO Subscription Concert No. 628

2023 5.31(水) 19:00 サントリーホール Wed. 31 May 2023, 19:00 / Suntory Hall

S ¥8,000 A ¥7,000 B ¥6,000 C ¥4,500

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)



孤高の芸術家・上岡敏之が振る ニールセンの“戦争交響曲”

上岡敏之は、今のクラシック音楽界において稀有な存在だ。現在、デンマークのコペンハーゲン・フィル首席指揮者とドイツのザールブリュッケン音楽大学教授を務めているが、それ以外の活動は極めて限定的で、他の楽団への客演も少ない。人見知りでナイーブな性格を持ち、出世欲もない。過去にはドイツの歌劇場で音楽総監督などの要職も務めたが、62歳となった今、「残りの人生は、気心の知れた楽団と良い音楽を作ることに専念したい」と語っている。

彼にとって読響は、最も長く客演を続けている楽団だ。1998年の初共演から客演を重ね、25年が経った。久々の客演となった前回2022年5月、チャイコフスキー「悲愴」などで凄まじい演奏を繰り広げたのが記憶に新しい。

今年度、読響の指揮台に上がるのは、この1公演のみ。メインの曲目には、彼が近年、作曲家の母国デンマークで集中的に取り組むニールセン作品から「読響とだったらこの難曲に臨んで更なる高みに行けるのでは」と、交響曲第5番を選んだ。ニールセンの交響曲の中でも最高傑作と称され、“戦争交響曲”とも呼ばれる。第一次大戦の影を感じさせる曲想を持ち、独創的で大胆な構成も特徴だ。

小太鼓が軍隊風に叩かれ、自己の内面や社会に向き合う上での葛藤や闘争が露わに描かれており、自ずと紛争の続く今の世界と重なるものを想起させる。上岡のタクトは、人間の醜さ、苦しさ、美しさ、喜びを炙り出し、音楽の持つ偉大なエネルギーを放つことだろう。

1曲目には、フィンランドの民族主義的な作曲家シベリウスの交響詩「エン・サガ」を演奏。標題は、歴史的な物語(伝説)を表しており、ロシアとデンマークという二つの強国に挟まれた祖国で、過去の英雄の悲劇的な運命への思いを綴ったと言われている。20分弱の作品だが、一晩のオペラを見るような起伏に富んでおり、歌劇場で培った上岡の手腕が存分に発揮されるはずだ。

前半には、ネイガウス、リヒテルら旧ソ連の巨匠たちの系譜に連なる80歳の巨匠エリソ・ヴィルサラゼが共演する。彼女は、数々の名ピアニストを輩出している名教師としても知られているが、その豊かな音楽性と繊細な詩情による演奏は今も健在だ。今回、シューマンの協奏曲を弾き、哲学的な思索を伴う奥深い至芸を披露するだろう。



上岡 敏之 指揮

コペンハーゲン・フィルの首席指揮者を務め、ドイツを拠点に活躍する鬼才。独自の解釈で作品の核心へと迫る大胆な表現で、聴衆の心を鷲掴みにしている。東京芸大卒業後に渡独、ハンブルク音大で学び「劇場叩き上げ」指揮者としてキール市立劇場でキャリアを始めた。エッセン歌劇場を経て、ウィースバーデンのヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ザールラント州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール市立歌劇場の音楽総監督兼インテンダント、新日本フィルの音楽監督などを歴任。ザールブリュッケン音大指揮科正教授として後進の指導にあっている。読響には1998年の初登場以来、度々客演。《読響アンサンブル・シリーズ》ではピアノを弾き、読響メンバーと室内楽でも共演を重ねている。



エリソ・ヴィルサラゼ ピアノ

ロシア・ピアノリズムを現代に継承する世界的巨匠。ジョージア生まれ。モスクワへ移り、ネイガウス及びザークに師事。20歳でチャイコフスキー国際コンクール第3位入賞を果たし、24歳でシューマン国際コンクール優勝。モーツァルト、ベートーヴェン、シューマン、ショパンなど、18～19世紀後期の作品で、高く評価を得ている。旧ソ連の権威ある芸術賞を多数受賞。欧州の主要音楽都市にて定期的にリサイタルを行うほか、室内楽などでも活躍。バルチャイ、コンドラシン、サヴァリッシュ、テミルカーノフ、K.ザンデルリンク、ムーティら巨匠の指揮で世界の一流楽団と共演している。モスクワ音楽院とミュンヘン音楽大学の常任教授を務めるほか、主要な国際コンクールの審査員を務めている。

読響日本交響楽団 第628回 定期演奏会

2023年 5月31日(水) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,000 / A ¥7,000 / B ¥6,000 / C ¥4,500

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyoku.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyoku.or.jp/>